



自慢できることを

学校長 村上正幸



桜花爛漫の言葉が実感できる春となりました。校舎周辺を見渡しますと草木に美しい花が咲き、葉の緑も鮮やかさを増しています。冬の間、暖かい日差しをじっと我慢して待っていた木の芽もふき、気持ちがわくわくするような躍動を感じます。

お子様のご進級、入善小学校へのご入学、誠におめでとうございます。今年度、伝統ある入善小学校の校長を務めさせていただくこととなりました村上でございます。

子供たちからは「入善小学校の子供でよかった」教職員からは「入善小学校に勤務できてよかった」また、保護者の皆様からは「入善小学校へ通わせてよかった」と感じていただけるよう誠心誠意努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

4月6日(水)、静まりかえっていた校舎に、子供たちの元気な声が響き渡り、始業式を迎えました。やはり、子供たちあつての学校だなと改めて実感させられた瞬間でもありました。

子供たちの顔は、進級した喜びと期待感に満ちあふれています。その子供たちに、学校教育目標である「なかよくする子」「進んで学ぶ子」「やりぬく子」について話しました。3つの目標が達成できると、「自慢できる入善小学校」子供たち一人一人が「自慢できる子」になっているものと考えます。

1学期の終わりに、私たちや保護者の皆様にこんなことができるようになったと「自慢できる」ことを言える子になってもらいたいと大きな期待を込めて話をいたしました。

子供たち一人一人が心穏やかで自尊感情を高めながら取り組む教育活動には、保護者・地域の皆様との力強い連携が不可欠です。「自慢できる入善小学校」「自慢できる子供たち」の育成のために、これまで同様、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

笑顔一杯の51名の新入生



7日(木)、朝からしとしとと雨が降り肌寒さを感じる日ですが、それを吹き飛ばすような満面の笑顔いっぱいの51名の1年生を迎える入学式が行われました。

在校生、教職員、保護者の皆様、何よりも新1年生がこの日を心待ちにしていたものと思います。緊張した表情での入場、担任の氏名点呼での「はい」の返事、式辞やお祝いの言葉への「ありがとう」の元気な応答から、新鮮な響き、この子供たちを預かり育てる責任の重さを感じ、身が引き締まる思いがしました。

式辞では、新入生には、「自分でできることを増やす子」と「絶対に飛び出しをしない子」の2つのことについて話をしました。朝の歯磨き、着替え、毎日の学校の準備など、まず、自分の身の安全は自分で守る子、そして、自分のことは自分で出来る子になってほしいとの願いからです。

「手をかけず、目を離さず」と言う言葉を聞くことがあります。時には、子供たちのすることを我慢強く見守ることが必要であるということを伝える言葉です。小さな子供たちがすることです。時間がかかるかもしれません。満足できるものになっていないかもしれません。でも、どこまでやれるのかじっと見守ることことで、子供たちの些細な進歩に気付き、そのことを褒めてあげることが出来るのではない

でしょうか。私たち教師もそんな関わりをしながら51名の子供たち一人一人の出来ることを増やしていきたいものと考えております。

